

【評価値】 1「達成できていない」、2「あまり達成できていない」、3「ほぼ達成できた」、4「達成できた」の該当する評価値に○印を付ける。

回答総数(人数) 98名

	具体的目標	(質問)具体的方策	集計数	集計数					無				
				1	2	3	4	無	無				
1 教育目標	① 健康で明るい生活をするために、必要な体力と安全な生活態度を育てる。	1 一人一人の幼児児童生徒の実態に即した具体的な個別目標が設定されている。		2	2%	6	6%	73	75%	17	17%	0	0%
		2 指導に関わる全教職員で幼児児童生徒の個別目標について共通理解が図られている。		2	2%	12	12%	71	72%	13	13%	0	0%
		3 みんなと仲良く協力し合っ、集団生活ができるような能力や態度を育てる。		2	2%	9	9%	71	72%	16	16%	0	0%
		4 働くことに喜びを見だし、ねばり強くやりとげる意欲を育てる。		2	2%	16	16%	68	69%	12	12%	0	0%
2 教育計画	① 年間指導計画の作成 ② 教育課程の完全実施	5 具体的な内容が年間を通して配列されている。		3	3%	13	13%	68	69%	14	14%	0	0%
		6 学校行事等に関連した計画が考慮されている。		1	1%	21	21%	60	61%	16	16%	0	0%
		7 計画された通りに授業時数を確保することができている。		0	0%	12	12%	62	63%	24	24%	0	0%
3 教科別の指導 領域別の指導	「生きる力」を重視し、基礎的・基本的事項の徹底を図る。	8 学習指導要領に示す各教科等の内容を踏まえた指導がなされている。		3	3%	11	11%	68	69%	16	16%	0	0%
		9 幼児児童生徒の生活に必要な資質・能力を育成する具体的な指導内容となっている。		2	2%	6	6%	74	76%	16	16%	0	0%
		10 職員相互の共通理解の下、指導の連携が図られている。		2	2%	8	8%	61	62%	27	28%	0	0%
		11 個別の目標に沿った適切な評価がなされている。		1	1%	4	4%	75	77%	18	18%	0	0%

		具体的目標	(質問) 具体的方策	集計数										
4 各教科等を合わせた指導	[生きる力]を具体化し、实际的、体験的な活動を通して幼児児童生徒が主体的に学習活動に取り組めるようにする。	12	発達段階や経験などを踏まえ、生活に結び付いた内容を中心に構成されている。		1	1%	7	7%	71	72%	17	17%	0	0%
		13	個々の実態に即した望ましい生活習慣の形成を図り、繰り返し、発展的・段階的な指導が行われている。		2	2%	10	10%	66	67%	20	20%	0	0%
		14	職員相互の共通理解や指導体制の連携が図られている。		1	1%	10	10%	62	63%	25	26%	0	0%
5 特別活動(行事・児童生徒会)	集団活動を通して、社会性を養い、望ましい人間関係を育てる。	15	行事の目標や指導内容を幼児児童生徒の実態に沿って設定がなされている。		1	1%	16	16%	65	66%	16	16%	0	0%
		16	生活単元学習等との連携が図られている。		3	3%	19	19%	65	66%	11	11%	0	0%
		17	職員相互の共通理解や指導体制の連携が図られている。		0	0%	11	11%	66	67%	21	21%	0	0%
6 交流及び共同学習	継続的で多様な交流及び共同学習の推進に努める	18	交流及び共同学習において、幼児児童生徒の個々の目的を踏まえた交流が行われている。		13	13%	35	36%	35	36%	15	15%	0	0%
7 生徒指導(生活指導)	幼児児童生徒の発達や特性に応じて基本的な生活習慣を身につけるとともに、好ましい人間関係を確立する。	19	幼児児童生徒の実態に合った目標や指導内容となっている。		0	0%	9	9%	67	68%	22	22%	0	0%
		20	職員相互の共通理解の下、一貫した指導についてチームとして行われている。		0	0%	9	9%	56	57%	33	34%	0	0%
		21	家庭や施設と密な連携が図られている。		0	0%	4	4%	65	66%	29	30%	0	0%
8 キャリア教育進路指導	幼稚園から高等部まで一貫した進路指導に努め、適切な進路決定を行う。	22	幼児児童生徒一人一人が主体的に学ぶ意欲や態度の育成、学習できる場の工夫が行われている。		0	0%	10	10%	71	72%	17	17%	0	0%
		23	学年、学部間、保護者、関係機関の連携に努めている。		0	0%	3	3%	65	66%	30	31%	0	0%
		24	個別教育支援計画の目標を子ども、保護者と共有し合意形成の下活用している。		0	0%	2	2%	68	69%	28	29%	0	0%
		25	校内実習、就業体験、進路講話、施設見学等の取り組みを通して、働く意欲・態度など養うための取り組みを適切に行っている。		1	1%	15	15%	61	62%	21	21%	0	0%

	具体的目標	(質問)具体的方策	集計数										
		26 小・中・高の進学時において進路(進学)に関する情報提供に努め、適切な進路指導を行っている。		3	3%	14	14%	62	63%	19	19%	0	0%
9 教育相談	教育支援体制を整え、校内及び地域・関係機関との連携の充実に努める	27 学校は、学年、学部間、保護者関係機関等との連携に努めている。		0	0%	5	5%	66	67%	27	28%	0	0%
		28 学校は、特別支援教育のセンター的機能の充実に努めている。		2	2%	19	19%	59	60%	18	18%	0	0%
10 安全指導 (保健安全)	健康で明るい生活をするために、必要な体力と安全な生活態度を育てる。	29 幼児児童生徒一人一人の健康の保持増進や体力の向上を配慮した教育計画が作成されている。		0	0%	4	4%	52	53%	42	43%	0	0%
		30 災害時(訓練時)に幼児児童生徒一人一人の実態に即した避難行動等の対応が行われている。		0	0%	3	3%	60	61%	35	36%	0	0%
		31 通学等の安全確認と、学校内外の危険箇所を把握して、安全指導に努めている。		0	0%	2	2%	58	59%	38	39%	0	0%
11 環境美化 (環境整備)	清掃活動や緑と季節の花のある環境を作ることにより、幼児児童生徒に心の安らぎを与え、豊かな人間性を育成する。	32 清掃活動を通して、校内の環境が整えられている。		0	0%	2	2%	54	55%	42	43%	0	0%
		33 教育活動全般を通して、校内緑化に努めている。		0	0%	9	9%	62	63%	27	28%	0	0%
12 校内研修	学校教育目標や学校課題にそった研究主題を推進する。	34 幼児児童生徒の実態把握に努め、目的や目標を明示し、学習活動の振り返りで達成感を実感できる時間や場の設定を行っている。		0	0%	2	2%	51	52%	45	46%	0	0%
		35 様々な研修や授業検討会を通して主体的な授業づくりの工夫改善に努めている。		0	0%	6	6%	55	56%	37	38%	0	0%
13 家庭、地域社会との連携	保護者や地域社会と連携し、創意的な学校経営に努める。	36 連絡帳や学級通信等で家庭との連携が図られている。		0	0%	7	7%	59	60%	32	33%	0	0%
		37 地域社会との連携が図られている。		1	1%	12	12%	67	68%	18	18%	0	0%
14 特色ある学校づくり	ICT活用の推進	38 幼児児童生徒の自立・社会参加に向けたICT活用が、積極的に取り組まれている。		1	1%	15	15%	62	63%	20	20%	0	0%
	読書活動の推進	39 学級活動や各教科等で図書館利用や読書活動が積極的に取り入れられている。		0	0%	3	3%	42	43%	53	54%	0	0%

		具体的目標	(質問) 具体的方策	集計数										
16 学校運営・その他	① 文書・予算処理	40	文書・報告・研究会等の情報は、速やかに周知・伝達がなされている。		2	2%	30	31%	54	55%	12	12%	0	0%
		41	提出文書などの作成・整理・保管等、事務と連携しながら適切に処理がなされている。		1	1%	16	16%	60	61%	21	21%	0	0%
		42	予算の執行計画、手続きなど事務と連携し、適切に行われている。		0	0%	11	11%	59	60%	28	29%	0	0%
	② 施設・設備・備品	43	教育活動を効果的に行うために、教材教具等を有効に活用し、整理・保管等が適切に行われている。		1	1%	9	9%	59	60%	29	30%	0	0%
		44	校舎内外の施設・設備の点検を定期的に行い、適切な安全管理がなされている。		0	0%	4	4%	60	61%	34	35%	0	0%
		45	事務と連携し、備品台帳の整備を行い、備品の登録廃棄等が適切に行われている。		0	0%	4	4%	58	59%	36	37%	0	0%
	③ 給食	46	メニューの工夫などに積極的に取り組み、栄養教諭、担任との連携が図られている。		0	0%	7	7%	66	67%	25	26%	0	0%
		47	給食に関する安心・安全の確保に努め、円滑な給食活動が進められている。		0	0%	3	3%	64	65%	31	32%	0	0%
	④ スクールバス	48	児童生徒の送迎で、バス部・保護者・担任との連携が図られている。		0	0%	6	6%	59	60%	33	34%	0	0%
		49	安全確保に努め、児童生徒と運転手・介助員との関わりがよく図られている。		0	0%	2	2%	60	61%	36	37%	0	0%
	⑤ その他	50	図書室は幼児児童生徒が利用しやすいように、本の紹介や書架の整理、掲示等が工夫されている。		0	0%	1	1%	60	61%	37	38%	0	0%
		51	校内での安全運転が守られている。		0	0%	1	1%	35	36%	62	63%	0	0%
52		来客者への接遇に配慮がなされている。		0	0%	3	3%	53	54%	42	43%	0	0%	

具体的目標	(質問)具体的方策	集計数
		0 0% 1 0 59 0.6 38 0.4 0 0

その他、評価項目にない課題・改善・要望等

【教諭全員】

1 教育目標

- ・支援計画、指導計画の活用に関しては、担当が中心になって扱っている。今後、教育課程の編成に伴って、小学部でも担当制と教科担当制(グループ別学習など)教師間で共有すること大切になってくると思う。学年内からでも、少しずつ共有していきたい。進級に伴って「学びの履歴」をきちんと引き継げるように全教諭が意識していければと思う。
- ・業務量が多く、教材研究や授業の準備をする時間が取りにくかった。
- ・来年度以降、身辺処理等の指導を行う時間が短くなるため、教育目標②は見直した方がいいと思います。
- ・職員間で、個別の指導計画等の共通理解する時間が確保できない。
- ・連携が図りやすくなる体制を今後どのように計画・実施するか各学部で検討していく必要がある。
- ・新しい指導計画の書き方について詳しく知りたい。
- ・個別の指導計画の活用が難しい。
- ・対応職員数の確保(病休)(コロナ関連対応)
- ・高等部は早下校がないため、放課後の時間で話し合い(学年会、学級会、教科会等)を持つ事が難しく、更に今年度はコロナ禍も加わり、情報交換会が十分にできなかった。次年度以降、職朝の設定も難しくなっていくとどうなるか。自分達で時間を見つける事でしか改善案は考えられないが、不安がある。

2 教育計画

- ・教科ごと、各教科において指導の偏りがある。指導要領の指導内容について、研修を積んでいきたい。
- ・コロナ禍ながら計画された授業時数をこなしていると思う。
- ・コロナ禍の中、授業時数の確保は、最大限できたと思う。

3 教科別の指導・領域別の指導

- ・指導の偏りについて、教諭の認識がない気がする。目標設定、評価については3観点設定は今からである。
- ・実態に応じた教科指導を行うためには、より学年間の連携が必要になってくると思う。
- ・次年度、「生きる力」を重視し、基礎的・基本的事項の徹底」について共通理解が必要である。

4 各教科等を合わせた指導

- ・児童の欠席が多く、継続して繰り返したい指導が難しかったので、リモート授業の実施や課題の出し方などの工夫、再検討が必要。
- ・指導体制について連携を取りたいが、業務量が多く時間外に指導体制について会議を持つことが多かった。
- ・コロナ対策のため、集団的な特別活動は、困難だった。

5 特別活動(行事・児童生徒会)

- ・生徒会役員だけでなく、全生徒が生徒会会員として活動できる時間(特活)が設定できないだろうか。

6 交流及び共同学習

- ・リモート会議システムのよりよい活用 ・コロナ感染症防止のため実施できなかった。 ・コロナの影響で仕方が無い ・同学年のみ国語・算数の授業グループ別学習に取り組み良かった。
- ・コロナの影響で今までの交流の捉え方では厳しい新しい交流の仕方を工夫しながらできる範囲で行える。 ・直接交流は難しくなった。工夫して今できる交流(リモート)を実施した。
- ・感染症予防の観点から実施が難しかった。感染症の状況の改善があれば、達成できると思う。
- ・他学年等との交流が見送られたので仕方がない。コロナが落ち着いたら再開したい。
- ・コロナ禍で、学校間交流も、居住地校交流も実施できなかった。
- ・例年おこなっている高嶺中との交流会はコロナ禍でリモートで実施になったが仕方がない
- ・コロナ禍で制限がある中、リモートによる他学校との交流をがんばっていたが、知的の生徒にとって、生での交流は、やはり貴重だと感じる。
- ・コロナの影響で実施できていない
- ・コロナ感染状況が落ち着くことで改善される
- ・今年度は仕方がない
- ・コロナ禍で制限のある中で、やれることはやっているとします。

7 生徒指導

- ・適宜、学部で情報を共有できるのでよい。
- ・生徒の実態が時代と共に変わってきているので、校則等も検討が必要ではないか。 ・特に外部生(軽度知的障害)への対応に苦慮する場面が多くなってきている。

8 キャリア教育 進路指導

- ・中学部体験学習が良かった。 中学部の負担が無ければ今回同様に2週間程度の期間が良いと思う。
- ・コロナ禍で、ほとんどの体験ができていない。
- ・進路部と保護者、生徒と面談等を通して行うことができる。
- ・コロナ禍で社会とつながる活動が設定しにくかったのが残念。
- ・コロナ禍の中で進路指導部の先生方はとても大変だったと思いますが、できることを前向きに捉え良く動いていただいたと思います。

9 教育相談

- ・支援部の対応にとっても感謝しています
- ・学年、保護者、支援部と連携は行っているが、更にアドバイザー的な支援がほしいです。
- ・支援部メンバーが相談ののってくれるので助かっています。

10 安全指導

- ・コロナ対策の徹底に努めた。学校として感染防止対策、精一杯できていると思う。避難訓練等、例年以上の取り組みで、いろいろと考える機会を得た。
- ・糸満駐車場のドアが開きっぱなしの時がある。全職員意識してカギをする
- ・津波の避難場所が遠く、心配
- ・天候によって左右される。体調や薬の服用による想定外な動きがあった時について課題。
- ・地震津波災害対策については継続して取り組む必要がある。

11 保健・給食

- ・肥満対策について、もっと家庭と一緒に積極的な取り組みをしていきたい
- ・コロナ禍での給食対応が難しく、職員間でも意識の違いを感じた
- ・擁護教諭・保健係のコロナ関係に関する丁寧な対応に感謝しています。表にはでない対応も多いとおもいます。ありがとうございます
- ・養護教諭や保健指導部の先生方が連携してコロナ禍対応の先頭に立って動いて下さいました。感謝です。

13 校内研修

- ・授業検討会を実施する時間が確保できない。
- ・直接的な授業検討会はやっていないため「主体的な授業作り」の工夫改善に関しては判断できないと思う。
- ・大きな変革の時期で大変ですが、次年度以降も知恵を出し合って乗り越えられたら良いと思います。

14 家庭、地域社会との連携

- ・コロナ禍で厳しかったと思う

15 特色ある学校づくり

- ・リモート学習に関する知識を増やしていかないと、情報の先生方への負担が大きくなる。 ⇒ 校内研修の設定

16 学校運営・その他

- ・学部室内の個人デスクに鍵が無く、安心して個人の貴重品を学校内に持ち込めない。
- ・バス部との連携が取りにくい(連絡したが伝達ミスがたまにある。乗せ忘れなど)
- ・スクールバス内での指導について、介助の先生にも協力をして取り組んでいます。ありがとうございます。運転手さんの子どもの関わりが増えて、ありがたいです。